

令和2年度 日本原子力学会北関東支部講演会 ご講演要旨

～ 第I部 ～

講演1

講演者：逢坂 正彦 氏(日本原子力研究開発機構 原子力科学研究部門)

演 題：「東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所燃料デブリ等分析について」  
～ 燃料デブリ分析及び評価への JAEA の貢献 ～

概 要：

1F 廃炉作業に必要な燃料デブリの取出し及び取出した燃料デブリの保管管理等に向けて、今後取得される燃料デブリ等サンプルの分析及び評価を行うことにより、燃料デブリの特性や核分裂生成物の分布等の現場の状況を明らかにすることが不可欠である。さらには、得られた知見や情報を用いて事故時に生じた現象を理解し、事故原因の究明を進めていくことが重要である。本講演では、日本原子力研究開発機構がデブリ分析及び評価に対して果たしていくことが望まれる役割や貢献について述べる。そして、廃炉作業を安全かつ着実に進めるニーズの観点で、燃料デブリの取出し、保管管理、処理処分及び事故原因の究明においてどのような課題があるのか、その課題を解決するためには燃料デブリについて何をどのように分析すればよいのかについて検討した結果を報告する。

講演2

講演者：佐々木 新治 氏(日本原子力研究開発機構 高速炉・新型炉研究開発部門)

演 題：「福島第一原子力発電所廃炉に向けた取り組み」

～ 大洗研究所燃料材料試験施設における試験と今後の展開 ～

概 要：

JAEA 大洗研究所の燃料材料試験施設では、これまでの高速炉研究開発で培った高放射線量の試料の取扱技術を生かし、福島第一原子力発電所(1F)で採取された汚染サンプルや類似のサンプルを用いて試験を実施し、1F 廃炉に向けた研究開発に取り組んでいる。その中で得られた汚染状況や付着粒子の分析結果は、これまでの1Fの作業エリアの除染等に反映されている。今後さらに1F 廃炉の課題となる1F 燃料デブリの取扱いに資する研究開発を進めていく。

---

### 講演3

講演者：佐藤 修彰 氏(東北大学 原子炉廃止措置基盤研究センター)

演 題：「東北大学における燃料デブリに関する基盤研究への取り組み」

～ 1F 廃炉の課題解決へ向けて ～

概 要：

東北大多元研では長年にわたりフロントおよびバックエンド化学の基礎研究を実施してきた。本講演では、それらと燃料デブリへの関わりについて紹介するとともに、デブリの挙動や分析など評価に関わる課題を取り上げ、今後の在り方について検討する。

～ 第Ⅱ部 ～

パネルディスカッション 「燃料デブリ取出しに向けた分析・評価の現在とこれから」

以上